

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 関西女子学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
東京メディア芸術	メディア芸術	夜・通信	0	4	226	230	13	
		夜・通信						
看護	看護	夜・通信		0	33	33	13	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>学生にはシラバスを配布するとともに、ホームページにおいて広く公表している。</p> <p>【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/tokyo_jitumuka.pdf</p> <p>【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/kango_jitumuka.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 関西女子学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元電鉄会社 代表取締役会長	2015.8.14 ～ 2019.8.13	組織運営体制のチェック機能
非常勤	弁護士	2018.10.15 ～ 2020.10.14	コンプライアンス
(備考) ・理事9名中、学外者6名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 関西女子学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部】 カリキュラムの最終決定後、12月に個別の授業担当者へ授業計画(シラバス)の執筆作成を依頼。その際、詳細な執筆要領を配布し、要領に基づいた執筆を行うよう依頼している。なお、より充実したシラバスとするために、2018年については、12月26日に、全授業科目担当教員を対象とした、ワークショップを含むFD研修を開催。1月上旬にシラバス原稿を締め切り、教務委員会の下に置かれたシラバス検証小委員会により、全科目の記載内容の適切性をチェックし、必要に応じて科目担当者と修正のやり取りが行われた。 3月に授業計画(シラバス)が完成し、新入学生及び在学学生全てに、新年度のガイダンスにおいて配布・公表。なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。</p> <p>【看護学部】 教務委員会にて、10月初旬までにシラバスの記入要領の見直しを行い、教授会の承認を得ている。非常勤講師には10月下旬、専任教員には12月初旬に、記入要領に沿ってシラバス作成の依頼を行った。各教員から提出されたシラバス原稿を、教務委員会と学務課職員で記入要領に沿った書き方がなされているか、学生にわかりやすい表現となっているか確認し、必要に応じて修正等の依頼を行っている。 完成したシラバスは、新年度のガイダンスで全在学学生に冊子を配布し、なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/pdf/2019/tokyo.pdf</p> <p>【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/pdf/2019/kango.pdf</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部】 個別の授業科目に関する学修成果の評価は、授業中の学修に対する取組み姿勢（積極性や意欲）、試験やレポート、課題等の評価指標について、全ての授業科目において、用いる評価指標の割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。なお、授業科目にはそれぞれの到達目標により、評価指標の割合は一律に定めることができないため、その配分については授業科目担当教員が行なっている。</p> <p>【看護学部】 全ての授業科目において、成績評価の対象となる項目を全て挙げ、合計100%となるよう、各項目の評価割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。また、より厳格かつ適正に評価を行うため、2019年3月26日にはルーブリック評価のFD研修を行い、学生の学習意欲向上を伴う評価が行えるよう取り組んでいる。</p>
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部・看護学部】 (共通) 成績評価における客観的な指標として、下記の方法でGPAを算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学期における総履修登録単位数で除した数値 ・学年 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学年における総履修登録単位数で除した数値 ・通算 GPA = $4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を在学中の全期間における総履修登録単位数で除した数値 <p>(東京メディア芸術学部の運用) 上記の式で算出されたGPAを用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び学生の学習意欲の向上のために活用している。</p> <p>(看護学部の運用) 上記の式で算出されたGPAを用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び教学改善に活用している。</p>
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>■成績評価における客観的な指標の算出方法</p> <p>【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/tokyo_gpa2018.pdf</p> <p>【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/kango_gpa2018.pdf</p> <p>【客観的な指標=GPAの算出方法】 (学部共通) https://www.takara-univ.ac.jp/about/pdf/gpa_sanshutsu.pdf</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【東京メディア芸術学部】

「卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士（芸術学）の学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。」

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、担当専任教員によって構成される卒業判定会議を開催し、個別の学生の学修状況を報告、別に関われる教授会において審議のうえ決定される。

【看護学部】

所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力
 ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力
 ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
 ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力
 ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
 ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
 ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
 ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
 ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。
 卒業認定は、看護学部の専任教員によって構成される教務委員会を開催し、学生の学修状況を個別に確認を行い看護学部教授会へ上申し、看護学部教授会において審議のうえ決定される。

<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>【ディプロマ・ポリシー】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/diploma.html</p> <p>【卒業要件・東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/academics/tuition/index.html</p> <p>【卒業要件・看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/kango/academics/tuition/index.html</p>
-------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宝塚大学
設置者名	学校法人 関西女子学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_taisyakutaisyouhyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 (資金収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_shikin.pdf (活動区分資金収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_katsudokubun.pdf (事業活動収支計算書) https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_jigyokatsudo.pdf
財産目録	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_jigyohoukokusyo.pdf
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 https://www.takara-univ.ac.jp/about/finance/pdf/h30_kansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：

https://www.takara-univ.ac.jp/about/evaluation/accreditation/pdf/self-inspection_h30.pdf

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

<https://www.takara-univ.ac.jp/about/evaluation/accreditation/index.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/goal/index.html) (概要) 教育理念：人間の「生きる力」を支える、心に働きかける芸術と看護教育 〔豊かな感性をもつ〕 自然の美や芸術とともに、人の心や気持を感じることができる人間を育成する。 〔深い理解力をもつ〕 さまざまな学問を学ぶとともに、よく考えることを通じて深く理解できる人間を育成する。 〔高い実践力をもつ〕 感性と理解力を活用して、課題に取り組み実践していくことができる人間を育成する。
教育研究上の目的 【東京メディア芸術学部】 美術及びメディア芸術に関する基礎的教育を施すとともに、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーション、コンテンツデザイン及び映像に関する理論及び表現について、深く教育研究し、それらに関する高度で専門的な職業能力を有する人材を育成することを目的とする。 【看護学部】 看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、保健・看護・医療の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/diploma.html) (概要) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) 宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。 【東京メディア芸術学部】 卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士 (芸術学) の学位を授与する。 1. 主体的行動力 自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。 2. 表現力 自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。 3. 社会貢献力・コラボレーション力 組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することがで

きる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

【看護学部】

所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/curriculum.html>）

（概要）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

【東京メディア芸術学部】

本学部では、建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力及び専門性を修得させるため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

◆教育課程編成の方針

1. メディア芸術に関する基礎的知識の修得と職業意識の醸成、コミュニケーション力及びコラボレーション力の育成を行い、実社会で活動するための知識や技能の基礎

を築くことを目的に、初年次教育の科目群を設定する。

2. 現代社会の要請を的確に捉え、思考の方法や行動の原理を理解するための基礎となる、汎用的な能力や社会的規範の修得及び多様な文化の理解を目的に、「基礎科目」「外国語科目」の科目群を設定する。

3. メディア芸術の素養を身につけた人材として、社会において活躍するために求められる、体系的な専門的知識や技能を育成することを目的に、「専門科目」の科目群を設定する。

4. 大学での学修を実社会と接続させる実践的体験を通して、学修の意義を認識し、社会において活動する意欲と能力を育成することを目的に、ゼミ活動や学外連携活動を設定し、単位を付与する。

5. 本学科での学修により得た知識や技能を統合し、自らの思考を表現、発信する能力を育成することを目的に、「卒業制作及び論文」を必修科目として設定する。

◆実施の方針

1. 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、各回の授業内容、成績評価基準を明確にして周知する。

2. 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの思考を他者に伝える力を育成するために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や教育方法を工夫する。

3. 大学での学修が実社会と接続していることを認識させるために、自治体や地域の団体等と連携した活動を積極的に実施する。

4. 授業の双方向性を高めるために、学生から提出された課題や制作物へのフィードバックを積極的に行うよう努める。

5. 教育課程の有効性について、学生の履修状況、単位修得状況、学生への各種アンケート調査及び教職員などへの調査に基づいて点検し、評価する。

◆教育評価

1. 1年次修了時に、自身の興味・関心や学修状況に基づき、2年次以降の専門分野を教員と話し合う専門選択面談を行う。

2. 3年次修了時に学修の到達度や成果に基づき、卒業制作や卒業論文に取り組む基礎能力の修得が完了しているかどうかの到達度評価を行う。

3. 4年次において、本学科での学修の成果を統合する「卒業制作及び論文」を必修とし、評価担当教員において評価基準に基づいて公正に評価する。

【看護学部】

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目

内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」「看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/admission.html>）

（概要）

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、高等学校等における学修を通して基礎学力を身につけ、幅広い教養と高い専門性を求めようとする、向上心・探究心を持っている人を受け入れる。

【東京メディア芸術学部】

本学部では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を行う条件として、次のような能力や意欲を備えた人物を求める。

1. 高等学校卒業レベルの基本的能力を備え、積極的にメディア芸術を学修する意欲を持つ人
2. 高等学校等の教育課程外（部活動やボランティア活動、社会貢献活動等）においても主体的に活動し、知識や技能を身につけてきた人
3. 明確な目的意識や目標を持ち、社会に貢献する意欲を持つ人
4. 社会の規範を遵守し、メディア芸術分野の知識や技能を用いた表現への意欲を持つ人
5. 計画性をもって他者と協力し、物事に取り組もうとする人
6. 知識や経験を基に理論的に判断し、物事を表現する意欲を持つ人

【看護学部】

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解
入学後の就学に必要な基礎学力を有している。高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 思考・判断
さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。
3. 関心・意欲
人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。
4. 態度
豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

<p>5. 意欲 看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。</p> <p>6. 表現 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/data/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
東京メディア芸術学部	—	6人	4人	4人	5人	5人	24人
看護学部	—	8人	4人	6人	3人	5人	26人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		112人					112人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 【東京メディア芸術学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/tokyo_teacher.html 【看護学部】 https://www.takara-univ.ac.jp/kango/academics/teacher/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学部の2018年度FD実施状況は以下の通りである。 【東京メディア芸術学部】 2018年7月「授業アンケート結果を活用したFD研究会Ⅰ（授業見学）」 2018年8月「授業アンケート結果を活用したFD研究会Ⅱ（意見交換会）」 2018年9月「カリキュラムマネジメントの重要性とカリキュラムマップ作成ワークショップ」 2018年12月「多様化する学生支援-発達障害を抱える学生への対応-」 2018年12月「学生の学修を促すシラバスの書き方と授業設計」 2019年3月「2021入学者向け-新カリキュラム案作成ワークショップ」 【看護学部】 2018年5月「職場を元気にするヘルスコミュニケーション」 2018年6月「生き抜く力を育むヘルスコミュニケーション」 2018年8月「健全な職場づくりと活性化：SOCの視点から」 2018年9月「3つのポリシーの策定の意義と一貫性構築技法」 2018年9月「学習評価の基本」 2019年3月「ルーブリック評価入門-時短・ぶれない・公平な評価方法-」							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
東京メディア 芸術学部	130人	134人	103%	520人	387人	74%	欠員の範囲	5人
看護学部	100人	105人	105%	400人	405人	101%	0人	0人
合計	230人	239人	103%	920人	792人	86%	欠員の範囲	5人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
東京メディア 芸術学部	62人 (100%)	2人 (3.2%)	47人 (75.8%)	13人 (21.0%)
看護学部	93人 (100%)	2人 (2.2%)	74人 (79.6%)	17人 (18.3%)
合計	155人 (100%)	4人 (2.6%)	121人 (78.1%)	30人 (19.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【東京メディア芸術学部】 株式会社サイバーステップ/株式会社マーベラス/株式会社アピリッツ/株式会社ハイド/ 株式会社 GIANITY/株式会社エイティング/株式会社アイフリーク・モバイル/株式会社エッ チ・アイ・シー/株式会社 ジェー・シー・スタッフ/株式会社オー・エル・エム/有限会社ユ ーフォーテーブル/株式会社マッドボックス/株式会社グレートインターナショナル/Find Japan 株式会社/株式会社メディア 22 世紀/株式会社ゼンケン/株式会社彩華生活/橋本コ ーポレーション株式会社				
【看護学部】 医誠会病院/大阪医科大学付属病院/大阪暁明館病院/大阪市立総合医療センター/大阪赤 十字病院/大阪府立急性期・総合医療センター/大野記念病院/関西医科大(総合医療センタ ー)/関西医科大学香里病院/関西電力病院/協和会病院/国立循環器病センター/国家公務 員共済組合連合会大手前病院/済生会茨木病院/済生会吹田病院/済生会千里病院/堺市立 総合医療センター/市立岸和田市民病院/市立豊中病院/市立東大阪医療センター/城山病 院/住友病院/千里中央病院橋会東住吉森本病院/多根総合病院/徳洲会松原病院/永山病 院/西淀病院/日生病院/八尾心のホスピタル/八尾市立病院/淀川キリスト教病院/りん くう総合医療センター/市立芦谷病院/医療法人川崎病院/大西脳神経外科病院/協立病院 /神戸市民病院機構/神戸赤十字病院/済生会兵庫県病院/笹生病院/三田市民病院/市立 池田病院/第二協立病院/兵庫県立尼崎総合医療センター/兵庫県立こども病院/ベリタス 病院/京都大学医学部附属病院/西京都病院/近畿大学医学部奈良病院/済生会和歌山病院 /TMG あさか医療センター/永寿総合病院/県立宮崎病院/多摩病院/宝塚大学助産学専攻科 (進学)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
東京メディア 芸術	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
看護	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	0人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考) 上記の数値は2019年3月に卒業した2015年度入学者のものである。

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) [第2号の3(3)「厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」を再掲]</p> <p>【東京メディア芸術学部】 カリキュラムの最終決定後、12月に個別の授業担当者へ授業計画(シラバス)の執筆作成を依頼。その際、詳細な執筆要領を配布し、要領に基づいた執筆を行うよう依頼している。なお、より充実したシラバスとするために、2018年については、12月26日に、全授業科目担当教員を対象とした、ワークショップを含むFD研修を開催。 1月上旬にシラバス原稿を締め切り、教務委員会の下に置かれたシラバス検証小委員会により、全科目の記載内容の適切性をチェックし、必要に応じて科目担当者と修正のやり取りが行われた。 3月に授業計画(シラバス)が完成し、新入学生及び在学生全てに、新年度のガイダンスにおいて配布・公表。なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。</p> <p>【看護学部】 教務委員会にて、10月初旬までにシラバスの記入要領の見直しを行い、教授会の承認を得ている。非常勤講師には10月下旬、専任教員には12月初旬に、記入要領に沿ってシラバス作成の依頼を行った。各教員から提出されたシラバス原稿を、教務委員会と学務課職員で記入要領に沿った書き方がなされているか、学生にわかりやすい表現となっているか確認し、必要に応じて修正等の依頼を行っている。 完成したシラバスは、新年度のガイダンスで全在學生に冊子を配布し、なお、大学ホームページにてシラバスのPDFデータを広く一般に向けて公表している。</p>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) [第2号の3(3)「厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」より再掲(複数)]</p> <p>【東京メディア芸術学部】 個別の授業科目に関する学修成果の評価は、授業中の学修に対する取り組み姿勢(積極性や意欲)、試験やレポート、課題等の評価指標について、全ての授業科目において、用いる評価指標の割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。なお、授業科目にはそれぞれの到達目標により、評価指標の割合は一律に定めることができないため、その配分については授業科目担当教員が行なっている。</p>

成績評価における客観的指標として、下記の方法で GPA を算出している。

- ・ 学期 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学期における総履修登録単位数で除した数値
- ・ 学年 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を当該学年における総履修登録単位数で除した数値
- ・ 通算 $GPA = 4.0 \times \text{秀の単位数} + 3.0 \times \text{優の単位数} + 2.0 \times \text{良の単位数} + 1.0 \times \text{可の単位数}$ を在学中の全期間における総履修登録単位数で除した数値

上記の式で算出された GPA を用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び学生の学習意欲の向上のために活用している。

「卒業要件を満たす所定の単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学士（芸術学）の学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。」

上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。

卒業認定は、担当専任教員によって構成される卒業判定会議を開催し、個別の学生の学修状況を報告、別に関われる教授会において審議のうえ決定される。

【看護学部】 [第2号の3(3)より再掲]

全ての授業科目において、成績評価の対象となる項目を全て挙げ、合計100%となるよう、各項目の評価割合を明確に示し、厳格に単位認定を行っている。また、より厳格かつ適正に評価を行うため、2019年3月26日にはルーブリック評価のFD研修を行い、学生の学習意欲向上を伴う評価が行えるよう取り組んでいる。

上記の式で算出された GPA を用いて、規程に基づき適切な学修指導、表彰及び教学改善に活用している。

所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力
 - ・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。
 2. 表現力
 - ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。
 3. 社会貢献力・コラボレーション力
 - ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。
 4. 課題発見力・課題解決能力
 - ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
 - ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。
 5. コミュニケーション力
 - ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。
 6. 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
 - ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
 - ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
 - ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
 - ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。
- 上記の方針に基づき、授業科目を配置、6つの能力の要素を各授業科目において示し、授業科目の単位修得の蓄積に基づき、最終的な卒業認定を行う。
卒業認定は、看護学部の専任教員によって構成される教務委員会を開催し、学生の学修状況を個別に確認を行い看護学部教授会へ上申し、看護学部教授会において審議のうえ決定される。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
東京メディア芸術	メディア芸術	124 単位	◎・無	44 単位
看護	看護	128 単位	◎・無	47 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：【キャンパス】 https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/campus/index.html 【宝塚キャンパス】 https://www.takara-univ.ac.jp/zoukei/facilities/index.html 【東京新宿キャンパス】 https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/facilities/index.html 【大阪梅田キャンパス】
--

<https://www.takara-univ.ac.jp/kango/facilities/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
東京メディア芸術	メディア芸術	900,000円	200,000円	600,000円	
看護	看護	1,000,000円	300,000円	600,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>【東京メディア芸術学部】 学生がより学修を深められるよう、全ての授業科目においてオフィスアワーを設定している。また、学生は2年次以降に専任教員によるゼミに所属し、担当教員による履修指導、成績指導、授業科目以外の教育活動に参加することにより、更に大学での学びを深化させる仕組みを構築している。</p> <p>【看護学部】 教員が毎週決まった時間帯に研究室を開放するオフィスアワーと、入学時から卒業まで学生一人ひとりに対して担当の教員がつくチューター制を取っている。授業の履修や学習や日々の生活や就職に至るまで、共に考えアドバイスを実施。入学すると同時にチューター（学生担当教員）との個別面談があるので、スタート時の不安の解消を図ると共に、大学生活から国家試験対策まで、きめ細かく対応する体制を整えている。</p> <p>《大学独自の奨学金制度》 学ぶ意欲のある学生でかつ経済的支援を必要とする学生に対し、以下の修学支援を行っている。</p> <p>[宝塚大学奨学金] 東京メディア芸術学部・看護学部共通 ①特別奨学生制度（1年次生） ②一般奨学生制度（2年次生～4年次生） ③創作・研究活動奨励制度（2年次生～4年次生） https://www.takara-univ.ac.jp/about/outline/scholarship/index.html</p> <p>[支援金制度] 東京メディア芸術学部 ①留学生日本語試験支援金 ②資格取得支援金 ③一人暮らし支援金 https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/student_life/tuition/index.html</p> <p>[スカラシップチャレンジ制度] 東京メディア芸術学部 ①AO1期対応型スカラシップチャレンジ ②総合型スカラシップチャレンジ https://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/admission/scholarship.html</p> <p>[成績優秀者特待生制度] 看護学部 ①入学試験成績優秀者特待生制度 ②成績優秀者特待生制度（2年次生以降）</p>

<https://www.takara-univ.ac.jp/kango/scholarship/>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【東京メディア芸術学部】

学生一人ひとりが志望する業界・職業に就けるよう、早めの目標設定とスムーズな就職活動を進めるさまざまな取組みを実施しています。卒業後の進路をイメージできるよう1年次後期に担当教員と個別面談を実施し、2年次のゼミ選択を決めている。早い段階から就業意識を育成するため、2年次以降のガイダンス時には、キャリアガイダンスを併せて実施している。ゼミ担当教員との個別面談をはじめ、学生の希望と適性を見極めたキャリア指導を行っている。3年次になると、学生毎にキャリアカウンセラーが付き、就職活動を含めた進路選択に対し、きめ細やかなサポートを行っている。

また、卒業後未就職の既卒者を対象に、求人紹介及び面接対策指導などの就職支援も実施している。

【看護学部】

キャリアセンター専属職員が、就職・進路調査を兼ね該当年次の学生全員を対象として個人面談を実施している。学生の進路希望を確認する以外に、志望動機や自己PRできる点は何か、将来の自分像について、就職の面接で自らの考えを伝えることかできるようになるまで、一人ひとり学生に対し個別・具体的なアドバイスなど支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【東京メディア芸術学部】

学生生活を送るうえでの様々な悩み事や相談事を持つ希望者に対して、臨床心理士によるカウンセリングを週2日の体制で行っている。また、本人の希望に応じて、近隣のメンタルクリニックへの紹介も行っている。その他、成績状況に不安がある学生や、履修に関する相談等は、日常的に教職員が応じ学生情報を共有しながら、学生の学修を支援する体制を構築している。

【看護学部】

勉学、就職、経済、健康、対人関係の問題や不安など、学生の個人的な悩みにも対応できるよう、専門のカウンセラーが相談に応じる「学生相談室」をキャンパス内に開設している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.takara-univ.ac.jp/about/info/index.html>